

昭和58年度
(第22回)

麻薬犯罪取締セミナー
実施要領

昭和58年8月

国際協力事業団
研修事業部



TA
JR
83-82

国際協力事業団	
受入 月日 84. 5. 22	000
登録No. 06803	21.5
	TA

目 次

1. コース名等	1
2. コースの目的、背景	1
3. 到達目標	2
4. 研修項目、研修方法	2
5. 研修員参加資格要件	2
6. 研修実施体制及び運営	3
7. 研修施設	3
8. 研修教材、資機材	4
9. 研修付帯プログラム	4
10. 研修の評価	4
11. その他	5
付録1. 研修日程(案)	7
付録2. 付帯プログラム日程表	9
付録3. 研修関係機関及び関係者リスト	10
付録4. 麻薬犯罪取締セミナー参加国一覧	11

JICA LIBRARY



1023465[6]

研 修 実 施 要 領

1. コース名等

(1) コース名(和文)： 第22回麻薬犯罪取締セミナー

(英文)： The 22nd Seminar on Prevention of
Narcotic Offences

(2) 期 間： 昭和58年9月15日(木)から10月22日(土)まで
の38日間

(3) 定 員： 18名

2. 目的・背景

(1) 目 的

現在、麻薬の乱用は、先進国、発展途上国を問わず、世界各国が直面している大きな問題である。

麻薬は、生産国から密輸中継地国を経て、消費国へと国境を横切って密輸され、国際的な麻薬密輸組織がその流通過程を支配している。

麻薬犯罪はこのように本質的に国際性という特質を有するが、それに対処するには、取締る側としても国際的な連帯や協力体制を強化するとともに、麻薬犯罪の特質に応じた取締り体制の確立や技術の向上に努める必要がある。

このような見地から本セミナーにおいては、日本をはじめセミナー参加各国の麻薬犯罪の現状や効果的な諸対策、特に取締り技術、取締り体制、取締り法規等を相互に紹介し合い、それらについて研究、討議を行って研修員の麻薬犯罪取締り技術の向上を図るとともに、研修員相互の親睦を深め国際的な連帯、協力体制の強化を促進する場を提供することを目的とする。

(2) 設立年度及び経緯

昭和37年以来毎年度開催

3. 到達目標

この種のセミナーにあっては、具体的な到達目標を設定することは難しいが、本セミナー開催目的を達成するため次の点を目標とする。

- (1) 日本及び参加各国の薬物犯罪の現状紹介と取締りに関する知識の交換及び相互理解の促進を図る。
- (2) 薬物犯罪取締り上の共通の問題点について研究、討議を行い、問題点の所在の把握とその解決方策を探る。
- (3) 研修員相互の親睦を深め、国際的連帯感や協力精神を涵養する。

4. 研修項目、研修方法

(1) 研修項目 別添日程表のとおり

(2) 研修方法

ア 講義

イ 見学

ウ 研修員の発表、質疑応答

エ グループによる研究、討議

オ 研修旅行

5. 研修員参加資格要件

(1) 応募条件

麻薬犯罪の取締りに直接従事している中堅幹部以上の職員（原則として中央警察機関に所属する者）で年齢は30歳から50歳、十分な英語能力

があり、健康な者。

(2) 選考基準

応募条件による。

(3) 割当国

バングラデシュ、ブルネイ、ビルマ、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、モルディヴ、ネパール、フィリピン、シンガポール、スリ・ランカ、タイ、香港、バブアニューギニア、モロッコ、サウディアラビア、アラブ首長国連邦、ボリヴィア、ブラジル、チリ、パナマ、ペルー（23カ国23名）

6. 研修実施体制及び運営

(1) コース運営の仕組み

本件セミナーは、警察庁と国際協力事業団の協力により、関係都道府県警察等の支援の下に、実施、運営されている。

(2) コースリーダー等の配置

ア コースリーダーは、本セミナーにおいては配置しない。

イ 研修監理員は必要人員配置する。

(3) 直轄、委託方式の区分

直轄方式による。

7. 研修施設

(1) 研修員受入先

警察庁保安部

(2) 宿泊及び研修施設

新宿 ニューシティホテル

〒160 新宿区西新宿4丁目31番1号 電 375-6511

8. 研修教材、資機材

(1) 教材

ア Drug Control Legal System in Japan

イ Police of Japan

ウ Drug Problem in Japan

(2) 資機材

オーバーヘッド・プロジェクター、スライド・プロジェクター、テープレコーダー、タイプライター、世界地図、黒板等

9. 研修付帯プログラム

(1) 集合ブリーフィング(1日間)

来日事務諸手続、滞在費等諸手当の支給手続、日常生活の一般的留意事項等について、集合ブリーフィングを原則として、来日の翌日に、東京インターナショナル・センター(TIC)において実施する。

(2) 一般オリエンテーション(5日間)

日本滞在中の必要知識として、わが国の現況紹介のためオリエンテーションを東京インターナショナル・センター(TIC)において実施する。

(3) プログラムオリエンテーション(1日間)

セミナー開始に先立ち、目的、日程、内容、方法等につき詳細説明のうえ、周知徹底をはかり、あわせて研修員の要望等も聴取し、セミナーの実施、運営の円滑化を計るため、プログラムオリエンテーションは実施される。

10. 研修の評価

セミナー実施の目的、目標達成度合について適確に把握するとともに、今

後の有効なセミナー運営の参考に資するため、次のとおり評価会等を実施する。

(1) 最終評価会

所定のファイナル・レポートを提出せしめるとともに、セミナー全体の成果について、感想、提案を求めるために、討論形式により意見交換をセミナー終了時に行う。

(2) 反省会

提出された報告書類、講師の意見、見学先の感想、評価会における発言等を総合的に分析し、本セミナーの評価を確定するとともに、実施報告書の作成および次回セミナーの基本計画の改善をはかるために、協議する。

(研修員帰国後)

11. その他

(1) オブザーバー等の参加

アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、西独等のオブザーバーが出席するほか、今年度は新たな試みとしてコロンボ・プラン事務局の薬物顧問 Mr. Pio Abarro が特別講師として、参加する予定である。(尚、同氏は、当セミナーの卒業生でもある。)

(2) 事務局の開設

セミナー期間中、セミナー会場内に事務局を開設し、講師の控室、事務局員の打合せ、待機場所および教材、資機材、タイプライター等の事務機材、事務用品、参考資料の使用、保管場所として利用する。

(3) 警察電話の臨時架設

セミナー期間中(9/25~10/17)警察庁は、事務局内に、警察専用電話を同庁の責任と経費負担のもとに、ホテルとの直接交渉により臨

時架設する。

(4) 議事録の作成

議事録を作成し、参加者や所属機関および国連麻薬部、コロンボ・プラン事務局等の関連国際機関に送付する。議事録の送付は、特に警察庁により実施される。

- 付 録
1. セミナー日程表(案)
 2. 付帯プログラム日程表
 3. セミナー関係機関および関係者リスト
 4. 国別研修員参加実績表

付録1.

第22回(1983年)麻薬犯罪取締セミナー日程表(案)

月/日	曜	午 前 (09:30~12:00)	午 後 (13:30~16:00)	備 考
9/22	木		開 講 式 プログラム オリエンテーション	新宿 ニュー シティ ホテル
9/26	月	日本警察の概況 (保安課長)	日本の薬物犯罪取締機 構法令(薬物対策室長)	"
27	火	日本における薬物犯罪 の取締(保安課長補佐)	国際捜査協力について (国際刑事課長)	"
28	水	捜査技術の研究 (警視庁保安二課長)	捜査技術の研究 (神奈川県保安課長)	"
29	木	日本における刑事手続 の概要(調査統計官)	研修員発表	"
30	金	研修員発表	同 上	"
10/3	月	薬物鑑定と見学(科警 研法科学第一部長)	警視庁見学	
4	火	研修員発表	研修員発表	新宿 ニュー シティ ホテル
5	水	同 上	同 上	"
6	木	研修旅行		
7	金	栃木県農業試験場 鹿沼分場 (無害大麻の研究)		
10	月	体育の日		

月/日	曜	午 前 (09:30~12:00)	午 後 (13:30~16:00)	備 考
10/11	火	研修員発表	研修員発表	新宿 ニュー シティ ホテル
12	水	研修旅行 実験動物中央研究所(神奈川県)		
13	木	研修員発表	東京税関見学	新宿 ニュー シティ ホテル
14	金	討 論 会	討 論 会	"
17	月	同 上	同 上	"
18	火	研修旅行		
19	水	神戸税関 兵庫県警		
20	木	京都府警		
21	金	評 価 会	閉 講 式	新宿 ニュー シティ ホテル
22	土	離 日		

付録2. 付帯プログラム日程表 (実施 於 TIC)

月/日	曜	時 間	内 容
9/15	木		研修員来日
9/16	金	14:30~16:00	集合ブリーフィング
9/19	月	10:00~12:00	東京インターナショナル・センター所長挨拶 国際協力事業団事業説明
		13:30~14:15	東京インターナショナル・センター業務説明
		14:15~16:15	よりよい滞日生活のために
9/20	火	10:00~12:00	日本の文化史
		13:30~14:30	日本の経済協力
		14:30~16:30	日本の人文地理
9/21	水	10:00~12:00	日本の経済
		14:00~16:00	日本の行政機構
		16:15~17:15	日本紹介映画上映
(9/22)	木	(開講式及びプログラム オリエンテーション) 於 新宿ニューシティ・ホテル	
9/24	土	9:00~13:00	都内バス見学

付録3. 研修関係機関及び関係者リスト

技術協力担当官 人事課 渉外専門職 中野 泰 廣
 警察庁警務局

運営担当

警察庁 保安部 保安課長 仲村 規 雄

“ “ 保安課 薬物対策室長 堀 和 雄

“ “ “ 理事官 中田 好 昭

“ “ “ 課長補佐 玉井 篤 雄

“ “ “ 薬物対策室 行武 紘 之

“ “ “ “ 村岡 光

“ “ “ “ 伊良波 幸 臣

“ “ “ “ 監物 仁

“ “ “ “ 鈴木 勇

“ “ “ “ 渡辺 徳 次

ほか

付録 4.

麻薬犯罪取締セミナー参加国一覧

○印……正式参加
 △印……オブザーバー
 数字は参加者数

参加国	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	参加実績	
シンガポール	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	19回 19人	
タイ	②	②	②	②	②	②	②	②		②	△	○	②	○	○	○	○	○	○	○	○	20回 30人	
マラヤ	○	○																				2回 2人	
フィリピン	○	②	○	○	②	②	○	③	○	○	○	○	○	②	○	○		②	②	○	○	20回 28人	
インド	○		○		○	○	○	②	②	○	○	②	○	②	②	○	○				○	○	17回 22人
台湾	○△	○	○	②	②			○	○	○	○											9回 12人	
香港	△	△	△	△	△	△	△	△		△	△	△				○	○	②	②	○	○	17回 24人	
ベトナム	△	○△	○	○	○	○	○	②	②	②	○	②										12回 18人	
インドネシア			○		②	○	○	②	②	○	②	②	②	○	○	○	○	○	○	○	○	18回 24人	
マカオ		△		△																		2回 2人	
パキスタン		○	○			○			○					○	○							6回 6人	
アメリカ		△	△						△	△		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	14回 22人	
ビルマ			②			②	②														○	4回 7人	
韓国		○	○	②	②	②	②	②	②	②	②	②	○	②	○	○	○	○	○	○	②	20回 31人	
マレーシア			②	②	②	○	②	○	○	○	②	○	○	○	②	○	○	○	○	○	②	19回 26人	
ラオス					○	○	○	○			②	②	○									7回 9人	
ペルー					○													○	○		○	4回 4人	
オーストラリア							△	△	△	△	△	△	△	△		△	△	△	△	△	△	14回 16人	
イラン								②	②	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	11回 13人	
コスタリカ										○												1回 1人	
ブラジル											○		○	○	○	○	○				○	8回 8人	
アフガニスタン												○				○	○	○				4回 4人	
メキシコ												○					○					2回 2人	
ボリビア													○					○		○		3回 3人	
コロンビア													○		②	○	○		○	○		6回 7人	
エクアドル													○		○		○					3回 3人	

参加国	年度																					参加実績	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21		
	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57		
エジプト													○									1回	1人
ヨルダン													○									1回	1人
スリランカ													○	○	○	○	○	○	○	○	○	9回	9人
トルコ												②	○	②	○	○						5回	7人
カナダ													△			△	△		△	△	△	6回	6人
イラク														○	○	○	○	○				5回	5人
バングラデシュ															○					○	○	3回	3人
ネパール															○						○	2回	2人
パナマ																○	○	○	○	○	○	6回	6人
ザンビア																○						1回	1人
アルジェリア																	○					1回	1人
ジャマイカ																	○	○				2回	2人
I. C. P. O.																	△					1回	1人
モルディヴ																		○		○	○	3回	3人
チリ																			○	○	○	3回	3人
フィジー																			○			1回	1人
バブアニューギニア																			○		○	2回	2人
サウジアラビア																			○			1回	1人
アラブ首長国連邦																				○	○	2回	2人
西ドイツ																				△	△	2回	3人
ニュージーランド																					△	1回	1人
46か国 1国際機関																							
参加者数	10(3)	15(5)	19(6)	14(3)	19(2)	17(2)	17(3)	22(3)	18(3)	17(3)	18(3)	23(4)	22(3)	18(2)	20(1)	21(4)	22(4)	20(2)	21(4)	24(6)	27(6)	計	404(72)人

()内はオブザーバーで内数

